

平成30年度 日本電子専門学校 第一回学校関係者評価 報告書

評価対象期間 自：平成29年4月 1日
至：平成30年3月31日

平成30年7月

学校関係者評価委員会

目 次

I	学校関係者評価の概要と実施状況	3
	1. 学校関係者評価の目的と基本方針	3
	2. 学校関係者評価委員名簿	4
	3. 学校関係者評価委員会の実施状況	6
	4. 学校関係者評価（自己評価結果）の評価の仕方	7
II	学校関係者評価報告書の見方	9
III	学校関係者評価委員会評価結果報告書	10
	1. 総評	10
	2. 項目別評価結果	
	教育重点項目	
	重点項目 1	11
	重点項目 2	12
	重点項目 3	14
	評価項目の達成及び取組状況	
	(2) 学校運営	14
	(3) 教育活動	16
	(4) 学修成果	22
	(8) 財務	25
	(10) 社会貢献	26
	総合評価【学校の改善に資するご意見】	26

IV 学校関係者評価委員会 議事録 30

- 1. 全体会自由意見 33
- 2. 分野別分科会 36

議事録

- ① IT・Web 分野分科会 36
- ② セキュリティ分野分科会 42
- ③ ビジネス分野分科会 44
- ④ 電気分野分科会 47
- ⑤ 電子分野分科会 50
- ⑥ ゲーム分野分科会 54
- ⑦ アニメーション分野分科会 57
- ⑧ デザイン分野分科会 59
- ⑨ CG 分野分科会 62

I 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的と基本方針

1) 目的

日本電子専門学校における学校関係者評価の目的を、以下のように定める。

- ①自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価をおこない、自己評価結果の客観性・透明性を高める。
- ②生徒・卒業生、関係業界、専修学校団体・職能団体・専門分野の関係団体、中学校・高等学校等、保護者・地域住民、所轄庁・自治体の関係部局、在学生など、専修学校と密接に関係する者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図る。

2) 基本方針

日本電子専門学校における学校関係者評価は、『専修学校における学校評価ガイドライン』に則って行うことを基本方針とする。

3) 委員会運営

平成 30 年度における学校関係者評価委員会を以下のように年 2 回の開催とする。

添付：自己点検評価／学校関係者評価

- ①第 1 回目(7 月)に実施する委員会は、平成 29 年度(前年度)の運用実績に対する自己点検評価の結果を学校から報告する。
また、平成 30 年度に定めた、重点的に取り組むことが必要な目標・計画を発表する。
- ②第 2 回目(11 月)に実施する委員会は、平成 30 年度の運用に於ける実施状況の中間報告会として行う。

2. 学校関係者評価委員名簿

学校関係者評価委員として、卒業生、関係業界、職能団体、関係団体、高等学校、保護者、地域住民、在学生に委嘱した。

属性	氏名	所属	役職
企業	浅賀 央起	株式会社ぴえろ	執行役員 人事総務部 部長
	石本 則子	株式会社スタジオフェイク	代表取締役
	井沢 祐	株式会社スタジオフェイク	研究開発部 ディレクター
	内田 昌宏	株式会社ラック	常務理事 事業企画部・営業 本部 シニアコンサルタント
	川崎 紀弘	株式会社コンセント	
	舟山 大器	株式会社横浜環境デザイン	営業戦略室 室長
	乗浜 誠二	株式会社ナレッジコンスタント	代表取締役
	新 和也	オートデスク株式会社	メディア&エンターテインメント セールスマネージャー
	渡辺 登	合同会社ワタナベ技研	代表社員
	佐々木 伸彦	ストーンビートセキュリティ株式会社	代表取締役 チーフセキュリティアドバイザー
職能団体	満岡 秀一	一般社団法人 Open Embedded Software Foundation	理事
	宮井 あゆみ	CG-ARTS 協会	事務局長
	中台 浩正	東京商工会議所 新宿支部	事務局長
	原 洋一	一般社団法人コンピュータソフトウェア協会	理事・事務局長
	米井 翔	一般社団法人組込みシステム技術協会	研修委員会 委員
卒業生	谷 伸城	株式会社アプリケーションプロダクト	ソリューション統括部 プロジェクトリーダー
	中山 秀昭	日本電子専門学校同窓会	副会長
保護者	藤本 香織		
	植村 美智子		
	清水 啓子		
	日比野 晴美		
高校教員 等	四條 勇人	株式会社ウィザス	教育運営部 ICT 推進室 主任

	松下 秀房	目白研心中学校・高等学校	理事 校長
	勝間田 清一	日本大学生物資源科学部	非常勤講師
日本語学校	沼田 宏	株式会社インターカルト日本語学校	教務部長
地域住民	小澤 博太郎	百人町西町会	会長
在校生	三浦 稚子	Web デザイン科	2 年生
	伊藤 史華	アニメーション科	2 年生
	戸嶋 瑠奈	ネットワークセキュリティ科	2 年生
	假野 紗希子	コンピュータグラフィックス科	2 年生
	大久保 匠真	コンピュータグラフィックス研究科	1 年生
	菊地 聖治	Web デザイン科	1 年生

3. 学校関係者評価委員会の実施状況

1) 学校関係者評価委員会実施日時・場所

日時：平成30年7月9日(月) 14:00 から 17:30

場所：日本電子専門学校 7号館 7B21 教室

2) 学校関係者評価委員会 進行状況

(1) 事務連絡(挨拶、配布資料確認) 14:00～

(2) 校長挨拶

学校関係者評価全体説明

(3) 評価方法説明

(4) 議長(委員長)選出

(5) 学校関係者評価委員会開始 14:15～

自己評価結果の解説とその評価

○教育重点項目

○学校運営

○教育活動

・・・ 評価結果の判定(評価シート記入) ・・・

○学修成果

○財務

○社会貢献

・・・ 評価結果の判定(評価シート記入) ・・・

(6) 学校関係者評価の総評と意見交換 15:25～15:50

(7) 分科会、学校見学 16:30～17:30

学校見学は希望者のみ実施

企業、団体の委員においては、以下の分野別に分科会を行った。

① IT・Web 分野分科会

② セキュリティ分野分科会

③ ビジネス分野分科会

④ 電気分野分科会

⑤ 電子分野分科会

⑥ ゲーム分野分科会

⑦ アニメーション分野分科会

⑧ デザイン分野分科会

⑨ CG 分野分科会

4. 学校関係者評価（自己評価結果）の評価の仕方

1) 自己点検・自己評価の実施

日本電子専門学校は、学校関係者委員会の実施に先立ち、『専修学校における学校評価ガイドライン』に則って、平成30年度自己点検・自己評価を実施した。自己点検・自己評価の点検項目は、平成29年度における「教育重点項目」3項目及び、「評価項目の達成及び取組状況」11分類63項目であり、合計66項目である。

『平成30年度自己点検評価報告書』には、各項目の自己点検実施状況を記載し、自己評価ポイント（適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1、無該当：0）を示した。また、①課題、②今後の改善方法、③特記事項を記載し、学校関係者評価委員に提出した。

2) 自己点検・自己評価結果の報告

学校関係者評価委員会では、『平成30年度自己評価報告書』を用いて、日本電子専門学校の各担当者が、学校関係者委員に対して、各項目の自己点検実施状況及び、自己評価ポイント、評価の根拠、課題、今後の改善方法等について説明した。当日は「前回課題とされていた項目」、「前回と評価が同じでも特別に報告を要する項目」、「前回と変わった項目」についてのみの報告し、評価をお願いした。

自己評価報告書 記述例

教育重点項目

1. 職業実践専門課程への対応

平成25年8月30日に告示された「職業実践専門課程」について、対象となる全ての学科の認定に向けた以下の対応を行った。

- (1) 教育課程編成委員会・・・各学科の専攻分野に関する企業および関係団体等の要請を十分に生かし、職業実践専門課程の教育を施すに相応しい実践的かつ専門的な教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法改善・工夫等を含む)について検討する委員会。

< 中 略 >

教育重点項目

	評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、 不適切：1、無該当：0				
重点-1	職業実践専門課程への申請は十分に行われたか	4	③	2	1	0

① 課題

[]

② 今後の改善方策

[]

③ 特記事項

[]

3) 自己点検・自己評価結果の評価

学校関係者評価委員は、日本電子専門学校の説明を受け、自己評価報告書の内容及び、自己評価結果の評価方法を理解した上で、日本電子専門学校が行った自己評価結果について「適切」または、「不適切」の2分法にて評価を行い、その理由や意見を「学校関係者評価委員会 評価記入シート」のコメント欄に記載した。

最後に、日本電子専門学校は、評価項目や学校・学科の改善に関する学校関係者委員の自由意見を聴取した。

学校関係者評価 評価記入シート 例		
教育重点項目		
重点項目1 職業実践専門課程への対応		
評価結果	適切	不適切
コメント欄		

4) 分野別分科会の実施

学校関係者委員会の一環として、学科の教育内容や運営に対する意見を聴取することを目的として、分野別分科会を実施した。分野別分科会には、企業、団体の委員が参加し、日本電子専門学校からは、教育部署長ならびに学科長が参加した。

分野別分科会で意見を聴取し、今後の学校運営に反映させるとともに、教育課程に関する意見は、教育課程編成委員会に申し送ることとした。

分野の別は、以下の通りである。

- ① IT・Web 分野分科会
- ② セキュリティ分野分科会
- ③ ビジネス分野分科会
- ④ 電気分野分科会
- ⑤ 電子分野分科会
- ⑥ ゲーム分野分科
- ⑦ アニメーション分野分科会
- ⑧ デザイン分野分科会
- ⑨ CG 分野分科会

Ⅱ 学校関係者評価報告書の見方

1. 自己評価結果の結果集計

学校関係者評価委員 32 名が記述した評価記入シートより、評価基準の「適切」記入数、「不適切」記入数を集計しパーセント表示した。

2. 委員コメント

評価記入シートの委員コメント欄に、学校関係者評価委員が直接記入したコメントを項目毎にまとめた。

3. 分科会の意見

分野別分科会で意見交換された内容や、具体的な学科に対する意見・改善提案を議事録「学校関係者評価委員会分野別分科会」にまとめた。

Ⅲ 学校関係者評価委員会 評価結果報告

1. 総 評

本委員会は、日本電子専門学校独自の自己評価の結果について、学校関係者による評価を行い、自己評価結果の客観性、透明性を高め、理解促進、連携協力によって学校運営の改善に役立てていただくことを目的としています。

日本電子専門学校が、学校関係者評価委員会を開催するにあたり、関係する企業、業界団体、卒業生、保護者、地域住民、高等学校教員等（大学、日本語学校含む）、在学生が評価委員の委嘱を受け、評価委員はそれぞれの立場から評価を行いました。

当日の進行としては、まず、全体会にて、前回同様「前回課題とされていた項目」、「前回と評価が同じでも特別に報告を要する項目」、「前回と変わった項目」について報告がありました。事前に自己点検評価報告書を送っていただいていたため、問題点の洗い出しが明確になり、委員の皆様も評価し易かったのではないかと思います。

自己評価報告に基づく委員の評価につきましては、ほとんど項目で適切との評価がつけられており、取り組みの内容についても高く評価していました。

最後に、委員の皆様から自由にご意見を伺う時間を設けましたが、（時間の関係から全員の皆様に個々のご意見をお聞きすることができませんでした）、出されたご意見の中には、学校がすぐにでも改善に取り組まなければならない事項も含まれており、非常に有意義であったと思います。

今後、学校の課題を解決するために、評価委員の意見を反映して頂くとともに、日本電子専門学校及び専門学校全体の教育の質を高めるような取組みを継続し、実施して頂くことをお願いいたします。

我々評価委員は、引続き協力することをお約束し、学校関係者評価委員会評価報告書を提出するにあたっての総評と致します。

学校関係者評価委員会
委員長 舟山 大器

教育重点項目

重点項目1 NEXT10（日本電子専門学校の更なる伸張）の確実な実施

評価結果	適切:30	不適切:1
------	-------	-------

コメント欄

- ① クレドの精神の浸透には長い時間がかかることは必然です。息の長い取り組みを期待しています。学生主催の「クロッキー&デザイン会」を企業として見学させていただきたいのですが可能でしょうか。（浅賀）→適切
- ② クレドについて・・・現状の社会ではクレドとて定期的な見直しが必要と言われております。毎年とは言いませんが数年に1度の見直しを行うことをお勧めします。（石本）→適切
- ③ クレドは作成してしまうと、形骸化しかねないものですので、「思いかえす仕組み」が大切かと思えます（川崎）→適切
- ④ ・ネームプレートの中に「建学の精神」始め「教育の質の保証向上」を確実に実施する為に、記入しているのは、徹底しようという意志が強く感じられ好感が持てる。
・ラーニングコモンズ等の新規取り入れ等も評価できる。
・学生自治組織も評価できる。（乗浜）→適切
- ⑤ 基本理念体系を記したネームカードは大変良いアイデアであると思う。さらに Web システムを活用した自己診断ツールの開発など進化している点も良い。基本理念は全ての基本であるので、この様な取り組みは大事だと思われる。（舟山）→適切
- ⑥ ネームカードを本当に教員の方が確認しているか微妙な気がします。上層部の方が毎日のように口ずっぽくなるまで言い続けるのがベストだと思います。このスペースに変更され、何が生み出されたかを是非今後知りたいです。（新）→適切
- ⑦ ラーニングコモンズ：電機大はキレイだが、利用されているか不明。表0-3のデータは昼休みに使っているだけだとも思われる。函館未来大や岩手県立大の施策もオススメです。
キャリア教育：小中高校生との施策レベルと思われる。専門学校生であれば、インターンシップレベルでの職業感体験が必須であり、イベント企画・運営レベルではないと思われる。（渡辺）→不適切
- ⑧ アクティブラーニング充実のためにホワイトボード導入は議論やアイデア検討のために良い改善と思います。（佐々木）→適切
- ⑨ 3つのポリシー策定が順調に進んでいるのがよくわかりました。設備の向上は学生にとっても有意義だと思います。（満岡）→適切
- ⑩ 教育の質の保証、向上のためには、教育の質の確保、底上げをはかり、学生の夢に応える「力」を身に付けることが必要だと思う。学生は、夢を持って目標を掲げて勉強を始めるが、現実の中で目標を下げていってしまう。このギャップを埋めるために、学生が何でも相談できるように同じ学科の上級生とグループにするとかやってみてはどうか？（中台）→適切
- ⑪ 教職員のネームカードの活用、学生クレドカードの策定等着実な計画と実行のサイ

- クルが見られる。(木田) →適切
- ⑫アクティブラーニングの充実で、施設の改善・工夫などで改善されたのであれば良い事である(勝間田) →適切
- ⑬確実な前進が見られます。クレドの完成は到達目標ではなく活用されて初めて意味を持つものなので、自己チェックシステムの一層の充実が望まれます。(沼田) →適切
- ⑭各学科のポリシー策定、およびカリキュラムの作成について、スピード感のある実施を期待します。(谷) →適切
- ⑮教職員用ネームカードの開発と全教職員の携帯はグッドアイデアだと思います。学生主導のイベントの実施はキャリア教育の充実になると思います。(小澤) →適切
- ⑯評価には厳しい気もしますが、目標、計画は素晴らしいと思いますので、地道に実現していただきたいです。(沼田) →適切
- ⑰策定するだけでなく、教員による自己診断を実施していると知り、とても安心できた。コミュニケーションスペースがとても充実していて良いと思った。(藤本) →適切
- ⑱コミュニケーションスペースはより身近に変化を感じていまして、ホワイトボードを利用している人も多く見ます。仕切りは感じてしまうので、真ん中に集中させずに移動自由にしたほうが個人的に使いやすく思います。(三浦) →適切
- ⑲未来を見据えて計画されているのが見える。(伊藤) →適切
- ⑳本館にはない可動式ホワイトボードが7号館のみなのはなぜか。コンピュータの使用上本館にすることが多いので本館にもあると嬉しい。(戸嶋) →適切
- ㉑10年先のことを見つめることはとても良い考えだと思います。時代によって教育法や指導法を変えていかなければならないので、その点に目をつけたことはとても適切だと思いました。(菊池) →適切

重点項目2 教育力の向上

評価結果	適切:30	不適切:1
------	-------	-------

コメント欄

- ①前回も指摘させていただきましたが、アニメーション科・アニメーション研究科の色彩検定の3級の取得は少々疑問が残ります。(浅賀) →適切
- ②資格について10.5%、14.6%、22.0%などの低いものはタイミング的なものでしょうか?(井沢) →適切
- ③策定したポリシーは適切に運用することが必要なので、確実にPDCAがまわせるように運用および体制を構築してください。
*学科によっては資格取得できる適当な資格試験が難しいケースもあるので例えば学内提出資格の構築やインターンシップ参加などを検討したらいかがでしょうか?(受験料の補助も)(井上) →適切
- ④オリジナル教材が「よくできている」かについての検討が必要なフェーズになって

- いるかもしれません。(川崎) →適切
- ⑤オリジナル教材は素晴らしい。
資格取得は、今一步であるが頑張ってもらいたい(乗浜) →適切
- ⑥オリジナル教材については増加しており進んでいると判断できる。資格取得指導の徹底についても大変高い取得率と思われ指導が上手くいっているのではないかと思います。(舟山) →適切
- ⑦前回より数字が伸びていて驚きました。ただ、これが教育のすべてではないと思うのでうまいバランスで評価していただければと思います。(新) →適切
- ⑧・資格取得：情報処理科の30%は問題ありと考える。ネットワークセキュリティの22%も同様。最低限の～資格レベルでこの取得率では学生のレベルが心配。学科として目標としている資格の取得も併せて取得率を明示すべきと考える。3-23の評価が“2：やや不適切”と評価しているので、オリジナル教材の状況から考えても評価は“3”ではなく“2”が妥当と考える。(渡辺) →不適切
- ⑨オリジナル教材開発が進んでいることが印象的でした。教員業務が多忙になっている現状、可能なものはアウトソースしても良いと思います。(満岡) →適切
- ⑩企業側の求める最低ラインを引き下げることなく、厳しく取り組んで欲しい。資格取得は学生にとっても努力のバロメーターになると思う。(中台) →適切
- ⑪各学科の全員が取得する資格は引き続き検討を続けて欲しい。(木田) →適切
- ⑫全般的に向上していると思われませんが各資格取得が低い学科が見られます。更なる取得率の向上があると良いです。(勝間田) →適切
- ⑬資格取得率のばらつきの大さき原因は何なのでしょう？指定された資格の必要性を学生が感じていないということもあるのでしょうか。(沼田) →適切
- ⑭オリジナル教材の開発は学生の理解に合わせた内容であろうと思います。貴重なことです。(小澤) →適切
- ⑮資格取得状況の改善に期待したい。(藤本) →適切
- ⑯取得率の差が目立つように感じられます。高取得率の学科は素晴らしいですが、低い取得率の学科が少しずつでも向上できるよう期待しております。(清水) →適切
- ⑰学校側からの見目が正しいと思うので。(日比野) →適切
- ⑱取り組みに合った教材が用意されていると感じます。(三浦) →適切
- ⑲コミュニケーションスペースの改善は非常にありがたい。学生自治組織で行われているイベントが14回もあるのは知らなかった。1年分の企画が決まっているのなら、スケジュール表などで見られるとありがたい。(伊藤) →適切
- ⑳適切ではあるものの今年度の1年生からJAVAの教科書があるのがうらやましい。また、ネット実習などでも分かりづらい説明であることを生徒が思い不満が大きいので分かりやすい資料や教科書が欲しいと思う。資格のレベルアップを検討したほうが良いと思う。(取得率が低いもの)(戸嶋) →適切
- ㉑昨年度よりオリジナル教材が増えているように私も感じています。(假野) →適切
- ㉒オリジナル教材の開発は勉強へ取り組む意欲の向上にもつながると思うが、必ずしもオリジナル教材を使うことが良いわけではないと思った。(大久保) →適切
- ㉓プロジェクトなど学校外で学習を行うことでしか学ぶことができないところもある

と思うので、プロジェクトの機会を増やすことはとても適切だと思います。(菊池)
→適切

重点項目3 第三者評価への対応

評価結果	適切：31	不適切：0
------	-------	-------

コメント欄

- ①適切に行われていると評価できます。(乗浜) →適切
- ②大変良く対応されていると思います。(舟山) →適切
- ③大変な対応だったかと思います。大変お疲れ様でした。(佐々木) →適切
- ④毎回、感じますが、第三者評価への取り組みは全国の専修学校でも模範になると思います。(満岡) →適切
- ⑤評価機構の第三者評価を受けたのは素晴らしい。(木田) →適切
- ⑥「第三者評価への対応」という表現が、教育重点項目につながっていない印象を受けました。うまく言えなくて申し訳ございません。(米井) →適切
- ⑦適切と思われます。(勝間田) →適切
- ⑧第三者評価における客観性をもった評価は大事なことです。(小澤) →適切
- ⑨よくやっていると思います。(日比野) →適切
- ⑩学校評議会に学生も参加させて頂けるので、とても学校に寄り添った信頼できる学校だと思います。(三浦) →適切
- ⑪第三者の意見もしっかり取り入れることもとても重要だと思うのでとても親切だと思います。(菊池) →適切

評価項目の達成及び取組状況

(2) 学校運営

2-9 人事、給与に関する規定等は整備されているか

評価結果	適切：31	不適切：0
------	-------	-------

コメント欄

- ①労働法の改正に対する具体的な取り組みを教えてください。(浅賀)
→適切
- ②・労働基準法に基づいた対応は、良い対応であると思います。
・周知徹底して充実した職員生活が行われることは必須であろう。(乗浜) →適切
- ③組織として取り組みにくい給与面などの改善を行っている。たった10分の違いを変えるのにどれだけ大変かわかります。努力されていることを理解いたしました。
(舟山) →適切
- ④教員の副業規定がどうなっているかを知りたかったです。(満岡) →適切
- ⑤電子学園が学生管理を電子化しておきながら職員がなされてなかったとはビックリです。働き方改革も必須なので、効率化に向けて取り組んで欲しい。(中台) →適切
- ⑥教員：事務など現場に合わせた就業規則など変更になった事は多くの面で効率化さ

れると思われます。(勝間田) →適切

⑦労働環境の整備は世の流れです。教育機関としての模範となっていたと思います。

(沼田) →適切

⑧就業規則及び給与規程についての運用も適正だと思います。(小澤) →適切

⑨先生には頑張って頂いているので、相応の評価が支払われるのは良いことだと思います。出勤管理の効率化が進められていて良い。(伊藤) →適切

⑩先生方の不満が改善されていると思う。(戸嶋) →適切

⑪規定を明確に設定する事は教師の意欲の維持、向上につながると思った。(大久保) →適切

⑫今までは、アナログ的なやり方がほとんどで、余計に手間がかかって大変だと思いましたが、システムを導入したことでその点が大きく改善されたので、とても適切だと思います。(菊池) →適切

2-11 業界や地域社会に対するコンプライアンス体制が整備されているか

評価結果	適切：30	不適切：1
------	-------	-------

コメント欄

①コンプライアンスは学外からの法令など要求事項だけでなく、学内ルールの順守も含まれるので実働的な運営とPDCAによる改善活動をお願いします。(内田) →適切

②コンプライアンス委員会において「個人情報取扱方針」「情報管理規定」「コンプライアンス委員会規則」を制定したのは、賛成であるが、やや遅い対応のような気がする。(乗浜) →適切

③適切に進めていることを理解しました。(舟山) →適切

④明示的な規則の整備・推進は素晴らしいです。今後も点検・改善をお願いします。(佐々木) →適切

⑤理事会承認が済んでいるとのことでしたので次年度は全て4になる認識です。(満岡) →適切

⑥理事会の承認まで進んでいるので「4」に近い。(木田) →適切

⑦理事会で承認されているようですので「4」でよいと思います。(米井) →適切

⑧体制の整備としては「4」ですね。(沼田) →適切

⑨コンプライアンス体制が整備されていることがわかりました。これからは運用の継続ですね。(小澤) →適切

⑩整っているなら「4」にしてしまってもよいのではないかと。(日比野) →適切

⑪しっかり教員の役割をしっかりとみられており。とても適切だと思いました。(菊池) →適切

2-13 情報システム化等による業務の効率化が図られているか

評価結果	※未記入：2	適切：29	不適切：0
------	--------	-------	-------

コメント欄

- ① 情報システム化等へは、適切な予算の配分（PC購入など）が成されており素晴らしい。
・新システム導入など積極的に行っており素晴らしい。（乗浜）→適切
- ② カリキュラムポリシーなど全学科目指し進んでいることが良く分かった。このまま目標に向かって頑張っていたきたい。（舟山）→適切
- ③ IT活用による業務効率化は必要と考えますが、具体的に効率化されたものが分かりませんでした。（業務時間の効率化など）（佐々木）→適切
- ④ 新システム導入後、どのくらい効率化できたかを数値化して頂けるともっと良かったです。（満岡）→適切
- ⑤ コンプライアンス体制整備の一環として電子決裁なども含めて書き換えなどの過去の経緯がわかるようにデータ保存を行って欲しい。文科省の検査方法もうまくいくのではないか。（中台）→適切
- ⑥ 統合基幹システムに統合化が進んでいるのは良い。（木田）→適切
- ⑦ システム化による業務の効率化についてよく理解できました。（小澤）→適切
- ⑧ こういうことにも効率化をきちんと考えて取り入れていて素晴らしい。（日比野）→適切
- ⑨ 10年後に向けて積極的な将来構想がうかがえる。（伊藤）→適切
- ⑩ 効率よくなっており、無駄がかなり削減されていると思う。（戸嶋）→適切
- ⑪ 業務の効率化は授業の質向上につながると思った。（大久保）→適切
- ⑫ システム化を行うことで、効率化がしっかりできていると思いました。（菊池）→適切

(3) 教育活動

3-14 教育理念等に沿った教育課程編成・実施方針等が策定されているか

評価結果		適切：28	不適切：3
------	--	-------	-------

コメント欄

- ① 4/25 学科はいかにも少ない感じがしますが、目標と結果のギャップが大きい理由を明らかにして下さい。（内田）→適切
- ② 方針（編成・実施）が「ガイド」として見やすく作られている点は評価できます。
・また、学科別に教育理念を策定しているのも評価出来る。（乗浜）→適切
- ③ 教育目標や育成人材像が「学園生活ガイド」に明示されている。適切だと思います。（舟山）→適切
- ④ 残学科のポリシー作成を急ぐ必要があると考えます。（宮井）→適切
- ⑤ ポリシー策定が進まない理由を知りたかったです。（満岡）→適切
- ⑥ 少し遅いのではないかと。（中台）→適切
- ⑦ 全25学科のうち4学科のみの策定に留まっているので「2」やや不適切が適当でな

いかと思う。(木田) →不適切

- ⑧ 学科ポリシーが策定されている数が少ないので「2」の評価とするのがふさわしいと感じました。(米井) →不適切
- ⑨ ポリシーが策定されている学科の内容は実践的で詳しくて良い。策定がされていない学科も同じように実践的で詳しく策定下さい。(勝間田) →適切
- ⑩ 今後とも継続して作成してください。(松下) →適切
- ⑪ 今後、他学科でのポリシー策定が待たれます。(沼田) →適切
- ⑫ 「学園生活ガイド」により学生が有効に利用することに教育理念等が周知されると思います。(小澤) →適切
- ⑬ 着実に進めていってほしい。(伊藤) →適切
- ⑭ 2年次で終わる学科の時間割が2年次に詰まりすぎだと思う。1年次から振り分けていけば2年後期に詰まりすぎることがなくなると思う。(戸嶋) →不適切
- ⑮ ここに記されている学科カリキュラムの指針等は素晴らしいと思いますが、コンピュータグラフィックス科についてのみ申し上げると現実とはかなりかけ離れているように感じました。授業数は少なく授業内容もあまりなく、いくら自発的な学習が大事とはいえ、もう少し先生方から教わるべきことがあるように思われます。(假野) →適切
- ⑯ しっかり具体的に策定されていると思いました。これらをしっかり実行できるように頑張っていかななくてはならないと思いました。(菊池) →適切

3-16 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか

評価結果

適切：31

不適切：0

コメント欄

- ① カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーは学校としてのコミットメントになります。ライティングテクニックの統一、内容の精査を今一度見直して下さい。(日本語の使い方など・・・)(石本) →適切
- ② ・体系的に編成されていると評価する。
・各学科の特色と目標を把握しており、充実できていると評価する。(乗浜) →適切
- ③ 一目で分かりやすく体系的に出来ていると思います。(乗浜) →適切
- ④ ポリシー同様に早期作成が必要と考えます。(宮井) →適切
- ⑤ 具体的な編成・推進・施策やスケジュールが知りたかったです。(満岡) →適切
- ⑥ 少し遅いのではないか？(中台) →適切
- ⑦ 今後、3つのポリシー策定を通して、さらなるカリキュラムの編成を考えてもらいたい。(木田) →適切
- ⑧ 適正と思われれます。(勝間田) →適切
- ⑨ 今後とも継続して作成してください。(松下) →適切
- ⑩ ポリシーの徹底と周知をお願いいたします。(小澤) →適切
- ⑪ カリキュラムを自分の学科のものを見てみると、科目が違いますが共通するような

所が同じ時期行っており、それを行うことでより理解が深まるので、とても良いな
と思いました。(菊池) →適切

3-17 キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか

評価結果	適切：31	不適切：0
------	-------	-------

コメント欄

- ①SBLの完成は素晴らしいです。次の機会以利活用状況を教えてください。(内田) →
適切
- ②・専門職としての職業教育なので、カリキュラムや教育方法・工夫・開発は、充分
に実施されていると思います。
・時間外活動も充実している様子で素晴らしい。(乗浜) →適切
- ③学生自治組織の今後の活動に期待しています。自ら考えて行動することは社会人にな
るため必要不可欠で重要となります。(佐々木) →適切
- ④特に問題ないと思います。(満岡) →適切
- ⑤企業は個人の能力だけでは仕事がうまくいかない。仲間や同僚との議論やチームワ
ークで質の高い総合力が生まれる。学生にはキャリア教育の重要性も理解させて欲
しい。(中台) →適切
- ⑥職業教育の視点に立って十分に工夫・開発が実施されている。(小澤) →適切
- ⑦オリジナル教材のシリーズを見た事がないので宣伝したほうが良い。(伊藤) →
適切
- ⑧今回改善されたものが欲しかった。(戸嶋) →適切
- ⑨企業と連携した実践的な授業は就職してからも必ず生きてくるものなので本格的な
授業はとても重要なものだと思います。(菊池) →適切

3-18 関連分野の企業・関係施設等や業界団体との連携により、カリキュラムの作成・見直しが行われているか

評価結果	適切：31	不適切：0
------	-------	-------

コメント欄

- ①色々な分野の企業と連携して、新たなプログラムの策定をしている点は評価できま
す。(乗浜) →適切
- ②重要な取り組みであるため、今後も継続してお願いします。(佐々木) →適切
- ③企業・団体連携は特に強化、推進を期待しております。(満岡) →適切
- ④教育課程編成委員会を通して、業界団体や企業の意見を取り入れていることは素晴
らしい。(木田) →適切
- ⑤時代の進歩に歩調をあわせた作成・見直しが行われている(小澤) →適切
- ⑥様々な議題を各学科が出していて、きちんと見直しがされている(大久保) →適切
- ⑦意見の中にはとても厳しい内容もありますが、誰でもできるようなものになったの
では意味がないので、厳しいことも必要だと思います。(菊池) →適切

3-23 資格取得に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか

評価結果	※どちらでもない：1 ※未記入：2	適切：26	不適切：2
------	----------------------	-------	-------

コメント欄

- ①重点項目2でも指摘させていただきましたが、アニメーション科、アニメーション研究科の色彩検定3級は再検討されたほうが良いように思います。(浅賀) →**適切**
- ②具体的にどの学科が適切で、目標達成がどの学科かを明示し、次回進捗があったかを確認できるようにしていただきたい。(石本) →**適切**
- ③かなり難しいミッション。もっと評価高くても良いかと。(川崎) →**不適切**
- ④実践的な職業教育は重要であり重点を置いているのは評価出来る(乗浜) →**適切**
- ⑤少し厳しい評価だと思うが、「教員の意識を変えたい」という思いに伝わりました。高い目標とは思いますが頑張ってください。(舟山) →**適切**
- ⑥資格は本人のモチベーションも大きいので教育の指導だけでは難しいのではないか？(新) →**適切**
- ⑦全学生が必ず取得を目標とする場合、その目的や意味を学生と強く共有し、カリキュラムの検討も必要と思います。(佐々木) →**適切**
- ⑧専門的資格取得を第一に考えるべきだと思います。(宮井) →**適切**
- ⑨“2”と厳しい評価ですが、今後に注目したいと思います。(満岡) →**適切**
- ⑩資格取得は、企業は採用にあたっての重要項目となるがそれ以上に学生本人にとっても入学時の目標だったはず。手はかかるが学生が目標を見失わないように指導してほしい。(中台) →**適切**
- ⑪全卒業生が目標の資格取得を得るよう、常に学生を指導したりアドバイスが必要と思われまます。(勝間田) →**適切**
- ⑫ディプロマポリシーにも関連するので目に見張る成果として頑張ってください。(松下) →**適切**
- ⑬資格そのものについての分析は十分になされているのでしょうか。その内容は学生が求めるものと合致しているのでしょうか。学科間のばらつきを見ると教員の意識にも差があるように思われます。(沼田) →**適切**
- ⑭資格取得は学生本人のためになるものですからぜひ力を入れて下さい。(小澤) →**適切**
- ⑮これは難しいと思います。(日比野) →**適切**
- ⑯資格取得は就職活動の中でも重要なアピールポイントになるのもっと重視すべきものだと思います。3級の検定を取って終わりではなく、もっと上を目指すことを促すべきだと思います。(菊池) →**不適切**

3-24 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか

評価結果	適切：28	不適切：3
------	-------	-------

コメント欄

- ① (3-23 と同様) 具体的にどの学科が適切で、目標未達がどの学科かを明示し、次回進捗があった確認できるようにしていただきたい。(石本) →**適切**
- ② ・外部からの採用のみならず、学内での人材育成も視野に確保、努力下さい。
・求める教員のスキルセット、要件は定義されているのでしょうか？(内田) →**適切**
- ③教育において教員の不足は「致命的」であるので、広く一般的に外部に依存するのもあり得ると思う(乗浜) →**適切**
- ④難しい問題ですが、これからも取り組み続けてください。(舟山) →**適切**
- ⑤専任教員の採用は容易ではないと思いますが、目標達成のために必要不可欠となるため、今後も積極的な採用活動に努めてください。(佐々木) →**適切**
- ⑥教員の数より新旧入れ替えの割合や学生からの評価、感想も加味する必要があると思います。(満岡) →**適切**
- ⑦優秀な教員の確保は、どこの学校も頭が痛いと思うが、電子業界は流れが速いので、お金がかかっても良い教員を集め優れた授業を行って欲しい。(パートタイムの講師でも良いのではないか？)(中台) →**適切**
- ⑧日本全体が人手不足の現代、常勤だけで対応するのは難しい。非常勤講師の手配・管理・評価はますます重要になる。(木田) →**適切**
- ⑨専任教員が増える率は学生に手厚い指導ができるようになるのであるべく増えるといいですね。(勝間田) →**適切**
- ⑩(同上)ディプロマポリシーにも関連するので目に見張る成果として頑張ってください。(松下) →**適切**
- ⑪確保できるように努力してください。(小澤) →**適切**
- ⑫今後も教員の確保に努めてほしい。「先生が忙しそうだから・・・」となかなか相談等しにくい・・・と娘も言っていた為。(藤本) →**適切**
- ⑬外部教員の先生の仕事の都合により授業がなくなることもあり、少し残念に思います。先生が増えるよう期待しております。(清水) →**適切**
- ⑭専門の教育数が増えるのは好ましい。確保出来ることを望みます。(日比野) →**適切**
- ⑮もう少し教員が居たほうが良い。1人の負担が多いように見える。(伊藤) →**不適切**
- ⑯足りていないと思う。(戸嶋) →**不適切**
- ⑰CG科も少ないように感じます。(假野) →**適切**
- ⑱教員の指導はとてもよくできていると思いますが、教員の数が少ないため、教員1人が出張などで授業がつぶれたりしてもったいないなととても思いました。(菊池) →**不適切**

3-25 関連分野における業界との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか

評価結果	適切：31	不適切：0
------	-------	-------

コメント欄

- ①個人的な感想ですが、アニメ分野に関して言えば、学科長・講師・キャリアセンター担当とのコミュニケーションは十分に取れていると感じています。(浅賀) →
適切
- ②非常に大変かと思いますが、教員採用は今後増々やや大変になるかと思いますが。危機意識を持って取り組んでいただきたいと思います。(石本) →**適切**
- ③・外部からの採用のみならず、学内での人材育成も視野に確保努力下さい。
・求める教員のスキルセット・要件などは定義されているのでしょうか？(内田) →**適切**
- ④学科長のプレイングマネージャー的なアプローチはもう難しいのでは？(川崎) →
適切
- ⑤新規に採用もありですが、「ボトムアップ」も必要かと思われます。(乗浜) →**適切**
- ⑥29年度において、39企業から43名の授業は良い連携だと思います。(舟山) →
適切
- ⑦ここは非常に重要な分野なので頑張ってください。皆人手不足のため、学校と連携することには前向きなはずですので。(新) →**適切**
- ⑧動向が速い分野に関しては企業動向を敏感に察知する体制も必要だと思います。
(満岡) →**適切**
- ⑨ディプロマポリシーにも関連するので目に見張る成果として頑張ってください。
(松下) →**適切**
- ⑩確保できるよう努力してください。(小澤) →**適切**
- ⑪こちらでも確保出来ることを望みます。(日比野) →**適切**
- ⑫非常勤講師の方々は現場のプロとしてお話が聞けるのでとても学びになっています。
(三浦) →**適切**
- ⑬新しい教員を業界からとることで現在の業界の動きが分かって良い。(伊藤) →
適切
- ⑭現役で仕事をされている先生方から良いコメントなどを頂くことが多いです。(假野) →
適切
- ⑮しっかり業界との連携がとても良くできているなど日々感じるが多いと思います。
(菊池) →**適切**

3-26 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組みが行われているか

評価結果	適切：30	不適切：1
------	-------	-------

コメント欄

- ①デジタルアニメ分野における技術習得が、ひとつのカギになるように思っています。

(浅賀) →適切

- ②・本項は第三者評価が必要ではないでしょうか？学校内評価だと曖昧になるように感じます。
・各学科の専門研修もそうですが、学園としての階層別研修がどのような現状なのかも伺いたかったです。(石本)→適切
- ③キャリアパスは定義されているのでしょうか？(内田)→適切
- ④研修による個々のボトムUPも必要であるが、全体的な情報共有による全体としてのボトムUPに力を入れているのは素晴らしい。(乗浜) →適切
- ⑤研修規程を設け、進めていることが理解できた。(舟山)→適切
- ⑥CG 関連に関しては現在ものすごい量のセミナーがあるが、その業界だけでなく、建築や製造分野でも現在CGの需要が強くなっているため、新しい業界の知識も得たほうが良いと思います。(新)→適切
- ⑦本項目は特に注力を期待している部分です。学生は数年後に社会に出るためトレンド把握はとても重要と感じております。(満岡) →適切
- ⑧教員の方には学生の質問に答えられる力をつけて欲しいと思う。専門だけではなく総合的な力をつけて教員の底上げを図ってほしい。(中台)→適切
- ⑨忙しい教員が多い中、参加させている研修が多いのは評価できる。(木田)→適切
- ⑩教育向上のために教員のスキルアップは必須です。組織として必要な研修の受講を求めることは重要ですね。自分にとって必要と思われる研修を受けることはしやすいのですが。(沼田)→適切
- ⑪教育内容のスキルアップのためにも教員の研修に力を入れて下さい。(小澤)→適切
- ⑫忙しい中だとは思いますが、教員の皆様には進んで研修へ参加していただき、さらなるスキルアップを目指してほしい。(藤本)→適切
- ⑬スキルアップの向上を望みます。(日比野)→適切
- ⑭研修で学んだ内容が生徒には上手く伝わらないことがあります。(假野)→不適切
- ⑮教員が先端技術をしっかり修得していないといけないので、教員の研修はとても重要なことだと思います(菊池)→適切

(4) 学修成果

4-29 資格取得率の向上が図られているか

評価結果

※どちらでもない:1

適切:25

不適切:5

コメント欄

- ①(3-23と同様)重点項目2でも指摘させていただきましたが、アニメーション科、アニメーション研究科の色彩検定3級は再検討されたほうが良いように思います。
(浅賀) →適切
- ②各学科の“目標資格”は難易度に差はないのでしょうか？教員の方や学生の方の努力だけで100%を目指せるものなのでしょうか？(そもそも無理なのか、それとも本当に100%を目指せるものなのか)(石本) →適切
- ③もし取得率の低い要因が学生自主性によるものならば“表彰”よりも、その資格を

取得することによってどのようなメリットがあるかを伝えていった方が良いかも
しれません。(学生にとっての目的が“資格取得”ではなく“メリット”に向くよ
うに) (井沢) →適切

- ④問題に対するサポートデスクの設置(試験対策サポートデスク)、受験料の補助など
検討できないでしょうか? (内田) →適切
- ⑤・専門学校生に求められるもののひとつに「資格」は必須である。
・受かるまで何度でも「受験」出来る環境は必要かもしれません。(乗浜) →適切
- ⑥キャリアセンターにライセンス担当がいること、その担当が資格の見直しまで行っ
ている点が良いと思います。(舟山) →適切
- ⑦資格取得の受験ハードルを低くする事が主たる施策に見える。資格取得の必要性、
メリットなどを経験者から伝えるなど、動機づけ施策にも積極的に取り組んで欲し
い。(渡辺) →不適切
- ⑧目標や資格レベルの見直しや意味付けが必要と思います。(佐々木) →不適切
- ⑨クリエイター系で選ばれている資格が適していないため取得率が低いのではないで
しょうか。(表 0-7) 動機づけが弱く。(宮井) →適切
- ⑩一定の取得できない学生は常に存在する気がします。100%を目指すものの、実際
には厳しいかと認識します。(満岡) →適切
- ⑪資格取得を目指して、「直前対策」や「補講」などを実施して、学生に簡単に目標を
引き下げないで合格率を引き上げていくべきだと思う。(中台) →適切
- ⑫学科内の正規授業で行う講座とキャリアセンターで行う対策講座の連携を強化し、
合格率の向上に努めて欲しい。(木田) →適切
- ⑬一元管理・推移分析は対策の準備段階と感じます。今後の取得対策が具体化されて
「3」になり、効果があつて「4」になると思います。(米井) →不適切
- ⑭教育部と連絡を取り、取得率の向上を図る必要があるかと思われる。(勝間田)
→適切
- ⑮就職とも連結するので学生のモチベーション向上等を進級クラスから実施したらど
うか? (松下) →適切
- ⑯最低限の資格取得 100%を目指すという考え方は素晴らしいと思います。学生にと
って価値ある資格であるか、そうであればそれを十分に伝えているかが重要でしょ
う。(沼田) →適切
- ⑰教員の動機づけは必要ありませんでしょうか(谷) →適切
- ⑱資格取得は学生の自信につながりますので、増々取得率の向上に努めてください。
(小澤) →適切
- ⑲学生側の意識にもよることなので難しいのではないのでしょうか。(日比野) →適切
- ⑳取得の必要性が高い学科と低い学科で大きく違うのだと思う。(伊藤) →適切
- ㉑持っいてもあまり必要ないといわれている資格が目標となっているのでレベルア
ップした資格でない限り向上はないと思う(戸嶋) →どちらでもない
- ㉒学校側の対策は良いと思うが、それでも取得率が上がらないのは生徒が知らなかつ
たり、行きづらいと思うためだと思う。もっと資格を取得させるための情報を広報
した方がいいと思った。(大久保) →不適切

- ②合格率が低いのは、やはり学生の勉強不足が一番の問題なので、補習などできない人への対応をしっかりとすべきだと思います。また、模擬試験などを行い、学生の理解度なども確認できるようにしなければならないと思います。(菊池) →**不適切**

4-30 退学率の低減が図られているか

評価結果	※どちらでもない：1	適切：29	不適切：1
------	------------	-------	-------

コメント欄

- ①退学率は低いように思いますが…退学率を踏まえた入学者人員の調整は行われているのでしょうか。(浅賀) →**適切**
- ②日本人と海外からの留学生の差異はないでしょうか?(石本) →**適切**
- ③学校でできることにも限界はあるし本人の向き/不向きの問題もあるので、ある時点で見極めることも必要では。(内田) →**適切**
- ④出席「率」で測るとそれ自体がドロップアウト予備者にプレッシャーになるのでは?(川崎) →**適切**
- ⑤退学に関しては(学習・経済環境・その他)とあるが、「仲間づくり」が大切かと思われる。学習も相互に補完出来れば、素晴らしいものになると思われる。(乗浜) →**適切**
- ⑥ドロップアウトは学校にとって大きな課題。0にすることは不可能ですが、0に近づける努力をしていることが理解できます。今後も学生のケアを宜しく願いいたします。(舟山) →**適切**
- ⑦出席率は非常に高く感じ、十分なのではないかと思います。ドロップ率は色々な問題があり正直しょうがない部分も多々あるかと思います。理由も学習とすれば、学生も傷つかないので、これが本当かも怪しいかと思います。(新) →**適切**
- ⑧・皆勤賞、精勤賞は退学率とは関係ないと思われ逆にドロップアウトする様な者には、よりネガティブな考えを増長させると思う
・アドミッションポリシーにおける具体的施策はやっていないのか?(渡辺) →**適切**
- ⑨入学前後でのGAPにより学習意欲の低下なども考えられると思います。入学前に学習目標やカリキュラムの丁寧な説明なども検討ください。(佐々木) →**不適切**
- ⑩改善にも記載されておりますが、やはり入学時の合意形成が重要かと思います。(満岡) →**適切**
- ⑪退学要因は様々だと思うが、経済的要因で退学をする場合はなんらかの救済措置をとって欲しい(出世払いみたいな貸付制度)。せつかくの芽をつぶさないでほしい。(中台) →**適切**
- ⑫ドロップアウトの理由が多様化していて対応も大変かと思う。現状の対策としては充分なのか、それとも不十分なのか、もう一度原因追及をした方が良い。(木田) →**適切**
- ⑬カウンセリングセンターと協力し、対処が必要でしょうか。(勝間田) →**適切**
- ⑭準備教育の期間で何らかの新たな取り組みが必要ということでしょうか?難しいで

すね（沼田）→適切

- ⑮ クラス別出席率一覧で見ると 100%出席のクラス、100%近い出席率のクラス・・・これは素晴らしいことだと思います。（小澤）→適切
- ⑯ 昨年度より少し増加となったのは残念ですが、さまざまな取り組みをされており、引き続き低減できるように努力をしていただきたいと思います。（清水）→適切
- ⑰ 今時の子という特性もあるので学校側が頑張っても本人達に合わなければ、結果にはならないので、これも難しいと思います。（日比野）→適切
- ⑱ 入学前の説明が足りていない。遅延ですら欠席扱いとなるため来る気力が無くなる（戸嶋）→どちらでもない
- ⑲ 退学理由で多いのは学習内容のミスマッチというより、授業についてこれなくなってしまった生徒を支えるシステムがないからのように感じます。（假野）→適切
- ⑳ 出席率が低いクラスへの個別の対応策はこれからも必要であると思った。（大久保）→適切
- ㉑ 出席率が悪くなると授業の理解が追い付かなくなり、やがてついていけなくなって退学につながると思うので、出席率の向上も大事ですし、欠席してしまった学生への授業の補習などの対応をすべきだと思いました。（菊池）→適切

（8）財務

8-51 財務について会計監査が適正におこなわれているか

評価結果	適切：31	不適切：0
------	-------	-------

コメント欄

- ① 財務内容に関しても「開示」しているので、大きな問題はないかと思われる。（浅賀）→適切
- ② 外部監事2名による財務会計監査を実施され適正に行われていると思います。さらに監査法人もしくは公認会計士による監査報告書提出を行う予定なのはより良いことだと思います（舟山）→適切
- ③ コンプライアンス、ガバナンス維持のために外部監査は重要と考えます。（新）→適切
- ④ 特に問題ないと思います。（満岡）→適切
- ⑤ 監査の外、補助金が各所から多く支出してもらえるよう常に検討ください。（勝間田）→適切
- ⑥ 広範囲に行われている事が知れました。企業の社員研修などの分野の需要もあるかも知れませんがリサーチしたらどうだろう。（勝間田）→適切
- ⑦ 財務について会計監査が適正に行われていると思います。（小澤）→適切
- ⑧ 監査の取り入れに意欲的で良い。（伊藤）→適切
- ⑨ 財務については、とても重要なことだと思うので、とても慎重に正確に行っていただきたいと思います。（菊池）→適切

(10) 社会貢献

10-59 地域に対する公開講座・教育訓練（公共事業訓練を含む）の受託等を積極的に実施しているか

評価結果	※未記入：1	適切：30	不適切：0
------	--------	-------	-------

コメント欄

- ①バーチャルリアリティ技術を踏まえた地域活動、お祭り等への貢献は御校の得意分野ではないかと思いますが・・・(浅賀)→**適切**
- ②地域の方対象の公開講座などがまた復活することを期待しております。(←H30はされるとのことで楽しみです。) ボランティアが増えるのは嬉しいことです。(石本)→**適切**
- ③学校教育向けの講習が増えているようで、素晴らしいと思います。このような学校の特色を生かした活動がいいのではと思います。(川崎)→**適切**
- ④地域に関しましては、毎年問題ないかと思います。(乗浜)→**適切**
- ⑤力を入れて行っていることがよくわかりました。(舟山)→**適切**
- ⑥今後、情報セキュリティの講座も是非お願いします。(佐々木)→**適切**
- ⑦素晴らしい活動だと思います。(満岡)→**適切**
- ⑧企業側の入社試験の面接においても社会貢献の体験について質問させていただきます。ぜひとも多くの学生に参加してほしいと思います。(中台)→**適切**
- ⑨続けて実施をお願いします。(勝間田)→**適切**
- ⑩地域に対する公開講座も計画中とのこと、着実な前進があることを感じます。(沼田)→**適切**
- ⑪公開講座、新宿警察署からの受託、高校教員対象・・・等積極的に実施されている。(小澤)→**適切**
- ⑫学校主催の講習会は必ず必要なのでしょうか。(日比野)→**適切**
- ⑬ほぼ毎月講座やボランティア等をしていて非常に積極的であると思った。(大久保)→**適切**
- ⑭日本電子専門学校がどんな社会貢献をしているのか、知らなかったのが、今回のことを聞きとても様々なことをやっていることを知ることができました。特に高校教員対象のIT講習会は、近年IT化が進んでいるからこそとても重要な社会貢献だと思うのでとても適切だと思いました。(菊池)→**適切**

総合評価 【学校の改善に資するご意見】

- ①クレドについて：定期的な調査と見直しが必要。学園に根付く内容なのかどうか。クレドは学園のフィロソフィーそのもののコアになるものですので、定めて終わりではないです。日本電子さんらしいクレドにして頂きたいです。
3 ポリシーについて：内容の大筋は良いとして、ライティングの見直しなどは必要です。(石本)
- ②細かい部分まで厳しく評価されていて素晴らしいと思います。オリジナル教材部分に関してゲーム業界は開発トレンドの移り変わりが早く、1～2年で“スタンダード”

が変わっていきます。教材のアップデートとそれを扱う教師の方の意識の持ち方が重要ななと思いました。(井沢)

- ③カリキュラムポリシー策定が4/25 学科と少ないのでなぜ策定できていないのか、課題は何かを明らかにして取り組んで下さい。教育活動、学生支援など着実な取組を継続してください。ポリシーは遵守運用することが重要なので実践的な運用をPDCAによる定期的な改善努力を願います。(内田)
- ④学科が主導で行わなければいけない項目の評価が低くなる傾向にあるように見えます。教務・事務方との温度差があったりするのでしょうか？各学科ポリシーなどは早急に対応すべき項目のように思われますが・・・(川崎)
- ⑤毎年同じ意見になります、大きく改善等に関してのコメントはありません。各担当部署にて、各々運営が独自に出来ておりそして毎年「改善」が見られます。ひとつ気になるのは、専門学校に求められる「専門職能」の評価でもある「各種資格」である。退学率とも関係あるかも知れないが、各資格は合格者を中心に「教えあう」環境があれば合格率は上がるし、受験科目を研究分析し合格のためだけの時間を作るのもありかと思われる。「取らせる資格」「評価・試験する資格」と区別して合格する喜びを経験させる事が大切かと思いました。(乗浜)
- ⑥企業においても教育に関することがどれだけ難しいかわかっており、毎回この自己評価に対し自己に厳しくかつより良くしていこうとする姿勢が良く分かり立派だと思います。今後も期待しています。(舟山)
- ⑦生徒数、就職率が一番高いとのことで素晴らしいと思います。ただ、現在時代の流れが非常に速く今後5年間で入ってくる生徒の質も激変することが予想されるのでその辺も踏まえて改革を進めていただければと思います。(新)
- ⑧毎年改善され自己評価の意義が確認できます。(宮井)
- ⑨業務上、大学との繋がりを持たせて頂いております。大学では卒業研究があるため半年、年単位での企業との取り組みを実施しています。その中で、東大の某研究室では在学中に起業させ教員がアドバイザーになって連携を深めています。専門学校でも実現可能と感ずますがいかがでしょうか？(満岡)
- ⑩課題に対して年々確実に改善していることがわかる。あと1,2年ですべての評価項目に対して「適切」の評価となりそうである。今後の維持管理や、新たに発生するインシデントに対する柔軟な体制構築が次の課題かもしれない。ここまでの発展は素晴らしい成果である。(木田)
- ⑪・専任教員の増加・ドロップアウトの減少・学生の学納金以外に補助金の確保の工夫
・教員の研修と話し合い統一意識を持つこと が重要かと思われます。(勝間田)
- ⑫全ての分野で現状に甘んずることなく社会に変化に対応してより高みを目指す考え方は素晴らしい。PDCA サイクルを回して確実な向上を期待する。(松下)
- ⑬理念の浸透に非常に力を入れていることを感じました。私どもも同様に社員・教員の理念浸透に取り組んでいますのでとても参考になりました。ありがとうございました。(四條)
- ⑭全体を通して着実に進んでいると感じます。毎年改善を重ね残っている問題点は一

朝一夕に解決できることではないものばかりのようです。それでも確実に歩みを進めている姿勢は同じ教育機関として見習うことばかりです。(沼田)

⑮教員の人数が不足している点が心配です。学生と直に接する教員が忙しすぎると素晴らしい計画も正しく実施できないことがあるのではないかと存じます。(谷)

⑯町会の立場から、地域貢献のため公開講座の開講、本館を中心とした各号館回りを早朝より清掃、町会で行うゴミゼロデイ(年2回行う)の参加、秋の祭りの参加、イベント等大変感謝しております。本日は学生の満足度向上の為に学園が努力していることが良く分かりました。どうぞ今後も継続、浸透をお願いいたします。

(小澤)

⑰さらなる成長に向け、色々と対策を検討したり取り組みをされているのは素晴らしいと思います。今後も教員の方々や生徒・保護者の方々の意見や要望を取り入れ、充実した学生生活を送れるように取り組んでいってほしいです。(植村)

⑱様々な取り組みの改善等が見られ、今後更なる発展が期待されます。教員の増員は早急に対応して頂けるとうれしいです。(清水)

⑲とてもよく取り組んでいると思いますし、厳しい目で見ていると思います。今後も良くなることはあっても悪くなることはないのではないかと思いますので現状維持も兼ねながら引き続き宜しくお願い致します。

自己評価報告書が事前に送られてきて当日は当日分があるのはペーパーレスの時代、紙ゴミになってしまう気がします(郵送代も時間も)。細かい中身なのですが、Web上で事前確認を各自でしてもらうことはできないでしょうか。保護者の委員用パスワードなどでログインできるようにするなどして質問や意見もそこで受け付けてはどうでしょうか。(日比野)

⑳私が学校生活の中で大きく目にとまった事はコミュニケーションスペースの改善でした。席数が増え、ホワイトボードの設置がされたのは生徒にとってとても快適なことだと思いました。また学生自治組織の活動も活発化しているのが目に見えるようになり、今後さらに活動が広がっていくように思いました。

卒業年次になり、先生方には就職活動に親身になって支援して頂けてとても嬉しく思っています。先日行われたポートフォリオ講評会でもたくさんの企業の方や卒業生にお越し頂き先生が提案した新しい評価方法で開催されました。キャリアセンターも多く活用させて頂き、積極的に就職活動を進められています。(伊藤)

㉑1年次の学習を終えて、教科書がない科目での苦勞が多かったです。主に JAVA やネット実習などでは基礎はもう理解済みという程で話が進められていたため初めて触る側としては基礎のわかる教科書があった方が良かったです。LAN ケーブル自作の時間が1時間だけ設けられたときがありましたが、1年次の前期から何時間か作る時間があれば嬉しく思うし入学時に替えづめと一緒に配布があると嬉しかったです。卒業年次になって思うことは2年次のカリキュラムが詰められすぎていると思いました。1年次からよく振り分けられていれば丁度良くなってくると思います。資格取得に関しても CompTIA よりも LPIC や CCNA の方が目標としている人が多いので、目標資格を変更した方が%が上がるのではと思います。(戸嶋)

㉒私の在籍するコンピュータグラフィックス科は1年生の前期で学校をやめた人が最

も多かったのですが、その理由は授業のスピードが速すぎたせいだったと思います。
しかし、1年生の後期からは自習が多くなってきたので、もう少しカリキュラムの
バランスがとれていたらよいと思います。

また最近では授業内容があまりにも無いため学校に来ない生徒がまわりはかなり
おり、皆同じように言っています。もう少し内容の詰まったカリキュラムだったら
良かったと私も思います。

また、生徒に危機感はや早い時期から与えたほうが良いと思うので、2年生学科は1
年生の前期から就職の話をした方が良いと思います。以後は教員の先生方について
改善点を直していくということなので、授業内容についてもっと改善されると良い
と思います。(假野)

- ②③資格や就職率などの問題に対して学校の対策は様々な工夫が施されていて、とても
良いと思った。しかし、良い対策をしていても、学生の意識そのものを変えなけれ
ば問題を大きく改善することができないと思う。外面的な対策を考える事も大事だ
と思うが、内面的な対策を実施してほしいと思った。

学校全体としては NEXT10 の取り組みや運営、財務等が適切に機能しているためこ
れを継続、さらに良くして行ってほしいと思った。(大久保)

- ②④欠席者に対する後日の対応。(菊池)

IV 平成 30 年度第一回学校関係者評価委員会議事録

日 時：平成 30 年 7 月 9 日 14:00～17:30

場 所：日本電子専門学校 7 号館 7B21 教室

学校関係者評価委員：

名 前	所 属 (役 職)	区分	グループ
浅賀 央起	株式会社ぴえろ (執行役員)	企業	A
石本 則子	株式会社スタジオフェイク (代表取締役)		A
井沢 祐	株式会社スタジオフェイク (ディレクター)		A
内田 昌宏	株式会社ラック (常務理事)		A
川崎 紀弘	株式会社コンセント		A
乗浜 誠二	株式会社ナレッジコンスタント (代表取締役)		A
舟山 大器	株式会社横浜環境デザイン (営業戦略室室長)		A
新 和也	オートデスク株式会社 (メディア&エンターテインメント セールスマネージャー)		A
渡辺 登	合同会社ワタナベ技研 (代表社員)		A
佐々木 伸彦	ストーンビートセキュリティ株式会社 (代表取締役)		A
宮井 あゆみ	CG-ARTS 協会 (事務局長)		職能団体
満岡 秀一	一般社団法人 Open Embedded Software Foundation (理事)	A	
中台 浩正	東京商工会議所 新宿支部 (事務局長)	B	
木田 徳彦	一般社団法人コンピュータソフトウェア協会 (理事)	A	
米井 翔	一般社団法人組込みシステム技術協会 (研修委員会 委員)	A	
勝間田 清一	日本大学 生物資源科学部 講師	教育関連	B
四條 勇人	株式会社ウィザス (第二教育本部・教育運営部 ICT 推進室 室長)		B
松下 秀房	目白研心中学校・高等学校 (理事・校長)		B
沼田 宏	株式会社インターカルト日本語学校 (教務部長)		B
藤本 香織			B
植村 美智子			B
清水 啓子			B
日比野 晴美			B
谷 伸城	株式会社アプリケーションプロダクト (ソリューション統括本部 プロジェクトリーダー)	卒業生	B

小澤 博太郎	百人町西町会（会長）	地域	B
三浦 稚子	Webデザイン科（2年）	在学生	B
伊藤 史華	アニメーション科（2年）		B
戸嶋 瑠奈	ネットワークセキュリティ科（2年）		B
假野 紗希子	コンピュータグラフィックス科（2年）		B
大久保 匠真	コンピュータグラフィックス研究科（1年）		B
菊地 聖治	Webデザイン科（1年）		B

日本電子専門学校参加者：

名 前	役 職
古賀 稔邦	校長
船山 世界	副校長
杉浦 敦司	教育部長
佐々木 卓美	教務部長
小暮 幸雄	広報部長
白石 修一	財務経理部長
丸山 治	人事部長
内田 満	総務部長

進行：

- | | | |
|-------|-------------------------|----------|
| 14:00 | 1. 開会（挨拶、配布資料確認） | 内田 |
| | 2. 校長挨拶、学校関係者評価全体説明 | 古賀 |
| | 3. 学校側参加者紹介、学校関係者評価委員紹介 | 内田 |
| | 4. 学校関係者評価の進め方説明 | 内田 |
| 14:15 | 5. 議長選出、委員会開始、議事進行 | 議長（舟山委員） |
| | 6. 自己評価結果の解説とその評価の報告 | |
| | 教育重点項目（1～3） | 古賀 |
| | （1）教育理念・目的・育成人材像 | 古賀 |
| | （2）学校運営 | 内田 |
| | （3）教育活動 | 杉浦 |
| | ・・・評価結果の判定（評価）・・・ | |
| | （4）学修成果 | 船山 |
| | （7）学生の募集と受入れ | 小暮 |
| | （8）財務 | 白石 |
| | （10）社会貢献 | 内田 |
| | ・・・評価結果の判定（評価）・・・ | |
| 15:25 | 7. 意見交換 | |
| 15:50 | 8. 全体会終了 | |
| 15:50 | 9. i 専門職大学設立についての現状報告 | |
| 16:00 | 10. 終了 | |
| 16:30 | 11. 分野別分科会（Aグループ委員） | |
| | 校内見学（Bグループ委員中希望者のみ） | |

<分野別分科会/校内見学>

A グループ		B グループ
16:30	分野別分科会	16:30 校内見学
	①IT・Web 782 教室	7号館、本館
	②セキュリティ 1B13 教室	(校内見学希望者のみ)
	③ビジネス 742 教室	
	④電気 1022 教室	
	⑤電子 791 教室	
	⑥ゲーム 441 教室	
	⑦アニメ 751 教室	
	⑧デザイン 762 教室	
	⑨CG 753 教室	
17:00	終了	16:00 終了

1. 全体会自由意見

自由意見：

自己点検評価の評価（適正・不適正）終了後、学校関係者評価委員より自由に意見を頂戴する時間を設けた。次年度の学校運営や教育活動に直接的、間接的に反映できる意見も多々あり、以下にその記録を報告する。

【(企業/ゲーム) 株式会社スタジオフェイク 石本様】

着々とやっていただき素晴らしいと思います。2点リクエストをお願いしたいと思います。

クレドについてですが、これは学園の行動指針になるもので、上層部の方のお話になるかと思いますが、クレドは欧米発祥の概念で、現在流れが非常に速いこともあり、現状社会においてクレドの見直しが重要であるといわれております。毎年とは言いませんが数年に1度の見直しを必ず行うということと、定数的・定量的な評価（学園のステークホルダー全員に対する包括的な評価）が必要であると思います。というのも、クレドを拝見した限りもう少し日本電子さんらしいクレドができるのではないかと考えています。もう1つですが、3つのポリシーについて、大方には問題ないが、テクニカルライティング的に言葉の統一や内容の重複がないか精査すべきだと思います。学校としてのコミットメントとなりますので、外に対するコミットが入ることを踏まえると、もう少しスタイリッシュで洗練された書き方ができるのかと思います。次回まで是非突き詰めてください。

【(企業/ネットワーク) ストーンビートセキュリティ株式会社 佐々木様】

資格取得の件ですが、ネットワークセキュリティ科の取得率が上がっていないのかなと思いました。話の中にもありましたが目的など掲げていますので、レベル感の見直しや目標達成に対する意識を持つことを徹底すべきだと思います。

もう1点、退学率の件で、企業でもいろんな要因がありますが、入ってからのケアだけでなく入学前のGAPができてしまうと思ったのと違うということやイメージの相違が生まれるのかと思います。入学前の丁寧な説明やカリキュラムの理解をしていただくといいのかなと思いました。

【(企業/IT・Web) 合同会社ワタナベ技研 渡辺様】

気になった点ですが、1点目はラーニングコモンズで、アクティブラーニング等のために学生のスペースを確保されていると思いますが、大体がゲームやYOUTUBEに陥っているのではないかなと思います。実際私も電機大に行ったことありますが写真のところを使っているのを見たことがないです。学生がみんなプロジェクトやるぜ！みたいな雰囲気にしてほしいです。また、先ほどのデータも昼休みにただ集まっているだけのデータなのかなと思いました。

次にキャリア教育の点ですが、学生主導でやっていこうという内容ですが、小中高校の委員会や運動会・文化祭の域を超えていないのかなと思いました。学生の職業観や

キャリア教育の観点でもう少し具体的な施策を掲げていただけたらと思います。

【(職能団体/CG映像) CG-ARTS 協会 宮井様】

毎年参加させていただいておりますが大きな改善といろいろな施策展開をされて自己評価の取り組みが確認できました。

ポリシー作成の部分で全学科まだ行われていない、毎年少しずつ追加されているとは思いますが、そろそろ全部そろえていただきたいです。また同様にカリキュラムの体系化も早期作成をお願いしたいです。

また資格取得の向上に関して、資格取得率の低さがありましたが、クリエイター系に適した資格になっていないことがあるのかと思います。資格も高度なものから取得しやすいものまでありますのでそういったところから見直していただけたらと思います。

【(高校教員等) 目白研心中学高等学校 松下様】

現状に甘んじることなく前向きにやっという姿勢が見えました。

資格は種類によって大きな差がありますが、就職に直結するか否かが大きいと思います。例えば電気工事士を取得していると確実に就職に有利であるというような実情があると教員も指導しやすく学生のモチベーションもアップすると思います。新しい分野などでは必ずしも就職に取得が必要でないというのものもあるのかと思います。ただ数字だけ一律に見ても評価できるところとできないところがあると思います。

大変学生が集まっており、最近インターネット学校も広がってきているので大変嬉しいです。

【(日本語学校) 株式会社インターカルト日本語学校 沼田様】

今までの企業様・団体様・高校教員様の発言と重なる部分が多いのでそちらは省きます。日本語学校というのをしているのかブラックボックスな部分がありますが、外国人を単なる単純労働者としてではなく専門の技術・労力を持った方を育てるための日本語教育を日本語学校では行っています。今後少子化の加速に伴い日本電子専門学校での留学生の占める割合もますます増えてくると思います。その中で、将来日本で専門の技術を持って働きたいという学生を教育していただきたいです。

報告書の98ページ日本留学 AWARDS とありますが、数ある専門学校の中でも日本電子専門学校が最も信頼できる・推薦できる専門学校と考えられています。これを今後も続けていっていただきたいですし我々もそういう学校に学生を送り出したいと思えます。

【(卒業生) 株式会社アプリケーションプロダクト 谷様】

資格取得についての意見がありましたが、私が情報システム開発科の頃は基本情報処理試験を取らないと学校に来た意味がないぐらいの気持ちでやっておりました。報告書の資料で取得率の低いところを見ると、最も低いのがコンピュータグラフィックス研究科のビジネス能力検定ジョブパス3級とありますが、やっている内容と対象の資格がマッチしているのかなという違和感があります。今後見直され改善されるかと

はと思いますが、これだと教員も学生も動機が生まれれないのではないかと思います。

【(地域) 百人町西町会 小澤様】

学校全体に対する意見で町会の立場からお話しします。先ほど報告にもありましたが公開講座を開いていただき今年もやっていただけるかと思っています。また、本館を中心に各号館を早朝清掃していただき町全体が大変綺麗になっています。またゴミゼロデイを年に2回しており職員の皆様にも参加いただいておりますし秋のお祭りやその他イベントにもご参加いただき大変感謝しております。

学生の満足度向上のために学校が大変努力されているのがわかりました。個別の学科についてはわかりませんが努力されており、ぜひともこれを継続して志等を浸透していただきたいです。

【(保護者) 清水様】

様々なことを改善されていて素晴らしいと思います。保護者の立場として、入学者数が増えたのは素晴らしいと思いますが、教員が少ないと思います。昨年度、子どもの担任が退職してしまったこともあり先生が増えると助かります。先日も外部の先生でしたがお仕事が忙しいとのことで授業がお休みになってしまいました。とても残念に感じましたし、今後そういうことが減り素晴らしい先生が増えることを期待しています。

【(在学生) コンピュータグラフィックス科 假野様】

改善された点が多く有意義な会でした。在学生の視点での意見として、2年生学科で就職活動のせい、授業内容があまりなく皆学校に来るよりか家で作業することが多く学校に来ない人もいます。授業内容がもう少しあればいいなと思います。

私は校内就職で就職ができたので良い出会いができ就職の面では感謝していますが、このような場で意見が言えるならば先生方の教育のカリキュラムを見直していただけたらと思います。

【(議長) 株式会社横浜環境デザイン 舟山様】

企業の中でも教育するというのは非常に難しいことですが、人を動かすのは3つ「恐怖・報酬・動機付け」と言われておりますが、学校においては動機づけが学生にとって大切だと思います。

先生から受けた言葉や教えてもらったこと等、仕組み仕掛けも大事ですが学生に対して何のためにこれをやるのかといった目的や動機づけがあると素直に動いてくれるのかなと思います。

2. 分野別分科会

分野別分科会は、以下の次第に従い、各学科の教育内容について、企業や業界団体の委員より評価を受けることを目的として行っている。同時に、業界の動向や最新事情などの収集や人材育成に関する意見交換などを積極的に行っている。

【次第】

1. 分野別分科会の目的と議事進行について
2. 実習環境の見学と説明
3. 意見交換
4. その他

【分野】

- ① IT・Web 分野分科会
- ② セキュリティ分野分科会
- ③ ビジネス分野分科会
- ④ 電気分野分科会
- ⑤ 電子分野分科会
- ⑥ ゲーム分野分科会
- ⑦ アニメーション分野分科会
- ⑧ デザイン分野分科会
- ⑨ CG 分野分科会